

414
A 803
3



松秘第十三號

「フィリッピン」島ニ於ケル居留帝國臣民ノ
保護及軍事視察ニ関スル報告

第二回

明治三十一年六月二十七日 於馬尼刺

松島艦長遠藤喜太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

一 一般ノ現況

第一回報告ト大差ナシ今其異ナルモノヲ掲クレハ大凡
左ノ事項ニ過キス

(陸上)



先般東馬尼刺市街各商店ハ殆ト閉店シ買手ニ
避難準備ニ汲々トシテ物情頗ル穩ナラス追日寂
莫ヲ極メタリシカ爾後十數日ノ間叛徒ハ府外約
一千五百乃至二千米突ノ巨島ニ接近セルニモ不拘徒
ニ曠日彌スヘキノ戰鬪ナク時々幾分ノ銃砲ヲ聞クニ
止マリ實ニ其決極ヲ想像スルニ足ルヘキ形情ヲ遂出
セシヲ見ス遷延此ノ如クナルカ故ニ市民モ爲メニ習
慣化セラレ其恐怖心ヲ減少セシモノ、如シ然レハ内
地ノ交通ハ全ク遮断セラル、カ故ニ物價ノ騰貴糧
食ノ欠乏ハ愈甚シキニ至ラントス

(城廓之内外)

城内ノ景況ハ依然變化ナシト虽モ糧食彈藥ハ既
ニ充實セシモノ、如シ然ルニ城外ハ日々囚徒ノ一隊ヲ

使役シ其防禦準備ニ忙ハシク展望ノ目的ヲ以テ
爲セル樹枝ノ折倒ハ今ヤ其歩ヲ進メ外濠ノ前面
ハ大小トナク悉ク樹身ヲ断伐シ之ヲ集收シテ野
堡ニ於ケルカ如ク樹枝ノ被覆ヲ施シ鹿柴ヲ造リ
テ之ヲ濠中ニ埋メ外濠ト城壁トノ間ニ於ケル斜
面ニハ二重ノ射架ヲ築キ以テ最終ノ防禦工事
トナスモノ、如シ

二 河シツクレ河口ノ閉塞

(目撃シタル其方法)

今回、戦事ニ関連シ船舶ノ出入一層頻繁ヲ要
スル場合起リ先般未一時河口ノ閉鎖ヲ開放シ
タレ本月初十日ヨリ再ビ之ヲ行フノ已ムヲ得サル
危期ニ切迫セルヲ以テナラシカ即ケ馬尼刺燈台直

下ニ於テ其南岸側ニ「ライター」船ニ類スル荷物船約五六十噸ノモノ十二隻ヲ縦ニ俵列シ教条ノ船索及鉄鎖ヲ以テ之ヲ繫索維シ其北岸側ニ六更ニ一隻ノ「ライター」ヲ繫索キ約十米突ヲ開放セル閘門ヲ設ケ小舟ノ通路ニ充テ其後方約百米突河上ニ溯リタル位置ニ於テ其量約百噸ヲ纏セル「スナ」形帆船三隻ヲ一線ニ横列シ船首ヲ河上ニ向ケテ沈置セリ即チ其二隻ハ北岸側ニ近ク横倒シ他ノ一隻ハ河ノ中央ニ在ツテ直立セシメ以テ通航ノ防障トナセリ然レモ北線内ニハ今猶自然ノ航門アルヲ以テ小舟ノ往來ハ現ニ支障ナシ

(其觀察)

降雨毎ニ該船内ハ溜水シ風浪起ルニ隨ヒ漸次下

流ニ移動シ現ニ其二三隻ハ口外ニ流出セリ此ノ如キ狀況ナルニ拘ラス今假リニ之ヲ降雨兩風浪ニ委セサルモノトナスモ決極閉鎖ノ目的ヲ貫徹スル事ニ於テ薄弱ト認定セサルヲ得ス況シヤ其現況ヲヤ

三 西國小砲艦「セブル」繫索維

(位置)

「スペイン」橋ニ近キ下流南岸側

(目的)

蓋シ其目的叛徒ノ未襲ニ際シ「スペイン」橋及其附近ヲ防禦スルニアルモノ、如シ

四 避難者ノ退艦

(其事由)

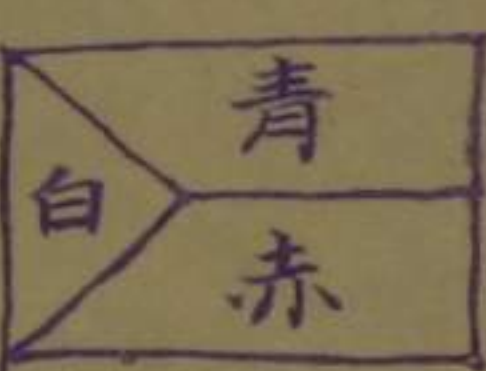
本官ハ當人等ノ希望ト叛徒ノ情況ニツキ從來

ノ經過トヲ參考シ目下馬尼刺府ハ叛徒ノ重圍ニ
 陥ルト虽氏果シテ府中ノ危険ハ猶時日ヲ要スヘキ
 モノアリト思考セシニツキ去ル六月十八日ヲ以テ三増
 領事ハ照會シタル處右本人等ノ希望ニ任シ
 度旨回答ヲ得六月十八日及十九日ノ兩日ニ於テ避
 難者十一名ヲ退艦上陸セシメタルヲ以テ現ニ一ツ
 避難スルモノナシ(第一回報告参照)

五 叛徒海上之交通

(目撃事シタル事實)

馬尼刺灣内沿岸ニ於ケル交通ハ公然叛徒ノ旗
 章ヲ樹テル小蒸気艇若クハ土人舟ニ依リテ決
 行セラル今其旗章ヲ掲ク如次



或人曰ク叛徒ハ其旗章ヲ改正シ從來ノ旗章青
 赤兩色界線ノ中央ニ一個ノ星章ヲ加ヘタリト

六 米艦隊ノ動靜

(目撃事シタル事實)

六月二十一日米艦「ヒウマカロク」飄然カビテ錨地ヨ
 リ馬尼刺燈台沖各中立國船舶、碇泊場ニ来
 リ各船舶ノ邊リヲ一周シ其固有錨地ニ碇港セリ
 (其觀察)

蓋シ其目的沿岸ノ偵察ニアラスシテ各國軍艦
 ノ舉動ニ注目セルモノ、如シ

七 獨逸艦隊ノ集合

抑モ明治三十二年六月八日本艦ノ馬尼刺灣ニ入
ルヤ獨逸艦ハ只「イシネ」及「コルモラン」ニ隻在泊セ
ルノミナリキ然レニ其後漸次其勢力ヲ茲ニ集中シ
又糧食等供給ノ爲メ汽船「ペトラーク」ヲ雇入
シ持久之策ヲ採ルモノ、如シ六月二十日ハ獨逸東
洋艦隊司令長官「テイトリッヒ」ノ旗艦「カイゼル」ヲ
始メトシ「カイゼリ」ノ「オーガスタ」ヲ「ナリ」セス、ウイヘルム
ノ五艦及運送船「ペトラーク」ヲ見ルニ至リ猶殘
餘ノ軍艦モ追日入港スヘシト稱ス
或ル有力ナル西國將校等ノ稱スル知ニ依レハ歐羅
巴歴史ノ關係ヨリ獨逸ハ其艦隊ヲ以テ西國
派遣新艦隊當灣到達迄西國ヲ保護シ米

艦隊ノ行爲ヲ強制セシトスルニアリト傳ヘテ相慶
スルモノ、如シ素ヨリ之レヲ信スルノ價值ナシト雖モ
亦以テ西人が如何ニ獨逸ニ依頼シ居ルヤヲ伺フニ
足ラレ蓋シ獨逸艦隊ノ北舉動ノ奇觀單ニ其居
留民ノ保護ニ止マルモノトハ認メ難ク必ズ時機ノ至
ルハ何カ企圖スル處アルモノ、如シ
我領事ヨリ聞ク知ニヨレハ獨逸ハ間接ニ西軍ヲ
援助スルノ報酬トシテ「ナリ」ガエシ灣ノ「スワール」ヲ要
求セシト云ヒ或ハ吾ナ「レ」シ「ダ」ナ「ヲ」島ナリトモ之ヲ「風
説」アリト然レテ是等ノ風説ハ英領事館ヨリ聞
知スト雖モ果シテ如斯ク要求ヲナセシ確証トスヘキ
モノ一モ無之唯後々ノ參考迄ニ差ニ記ス
五月二十三日獨逸「ナリ」セス、ウイヘルム」號出港シ

二十四日未明「イシネ」號出港然して二十五日ニ旗
艦「カイゼル」號モ亦出港ス但し「プリスセス」ウイム
ルム及「カイゼル」ハ「マリベル」灣ニ行キ又「イシネ」號ハ
「リシガエン」灣へ航セシテ後ニテ判明セリ

八 在港各國軍艦

一 米軍艦ハ前報ノ如ク「カビテ」ニ碇泊ス「バルクモ」
號ハ六月十七日出港シ未ダ碇港セズ蓋シ米國ヨ
リ送兵ノ運送船出迎ヒ、爲ノ出港セシモノ也
ト聞ク

一 英軍艦ハ初メ當港ニ配置サレシモノハ「イムモタ
リテイ」號一隻ノミシテ他ニ「リネット」「ラトラー」
ノ二砲艦アリテ當港香港間ノ通信及ヒ當群
島南部諸港巡航ノ役務ニ従事セシメアリ

シガ前記ノ如キ独逸軍艦逐次増加スルヲ以テ
在馬尼刺英領事ノ請求モアリシ由ニテ急ニ軍
艦増遣ノ「」決シ在香港ノ「ホナベン」チ「ユア」ハ六月
二十日入港ス但し同艦ハ「イフイジニヤ」號長崎
ヨリ着港スレハ威海衛ニ赴クモノナリ同二十五日「イ
フイジニヤ」及「プロバー」入港シ翌二十六日「ホナベン」チ「ユア」
威海衛ニ向ケ出港ス二十七日現在ノ英艦ハ「イムモ
タリテイ」「イフイジニヤ」及「プロバー」三艦ニシテ其他
一二隻ノ砲艦モ逐次着港スル筈ナリト聞ク

一 併軍艦モ初メ當港ニ配置サレシハ「ブルイー」號
一艦ノミナリシモ独艦増遣ト畧同時ニ「パスカ」號
急ニ東京地方ヨリ派遣サレタリ當時同艦長訪
問、際、談話ニ余ハ急ニ當港へ派遣サレタルモ糧

食石炭等不充分ナレハ孰シ長クハ當港ニ碇泊ス
 ルヲ能ハス同補給ノ爲メ近日「サイゴン」ニ赴クト果
 シテ同艦ハ六月二十三日「サイゴン」ニ向ケ出港セリ同
 二十五日佛國司令官海軍少將「バドリエール」氏
 旗艦「バイヤール」履門ヨリ入港ス同日司令官ノ談
 話ニ「巴里」ヨリハ電信ニテ急ニ當港ヘ回艦ヲ命
 セラシタリト

一 獨軍艦ハ前記ニ詳ナレハ爰ニ掲ケス

外國艦船出入表 (六月二十六日)

國旗	艦船名	入港月日	出港月日
米國用船	サヒロ	カビテ 六月十八日	カビテ 六月十七日
米國軍艦	バルキモア	カビテ 六月十八日	右 六月十七日
叛徒汽船	未詳	カビテ 六月十八日	右 六月十七日
獨國軍艦	カイゼル	マニラ 六月十八日	マニラ 六月十五日
右	コルモラ	右 六月十九日	マニラ 六月十九日
英國汽船	未詳	カビテ 六月十九日	右 六月十九日
獨國汽船	ペラーケ、コリン	マニラ 六月二十日	右 六月十九日
獨國軍艦	プリシセス、ウセルム	右 六月二十日	右 六月二十日
英國汽船	エスマラルダ	右 六月二十日	右 六月二十日
英國軍艦	ボナベンチヤ	右 六月二十日	右 六月二十日
右	ラットラー	右 六月二十日	右 六月二十日

記事

本國ヨリ到着スヘキ運送船
 ノ迎ヒノ爲メト傳フ
 マリベル又灣エ向フ
 午前ニ出港シ午後ニ入港ス但
 シ操練等ノ爲ナラシ
 マニラ獨軍艦ヘ糧食供給
 ノ爲メナル
 特許ヲ得テ郵便荷物避難
 者ヲ搭載スルモノ
 威海衛ニ向ケ
 「イロイロ」ニ向ケ
 七

國旗	艦船名	入港月日	出港月日	記事
佛國軍艦	パスカル		マニラ 六月十五日	サイゴンエ向ケ
獨國軍艦	イシネ		右全 六月十五日	
米國汽船	未詳		カビラ 六月十五日	
英國軍艦	イフセニヤ		マニラ 六月十五日	
右全	プロバ	右全		
英國汽船	源生	右全		香港ヨリ
佛國軍艦	バヤール	右全		廈門ヨリ

九 中立陸地畫定ニ関スル協議

六月二十四日在馬尼刺各國領事ハ人命保護ノ爲ノ市中ニ於テ中立地ヲ設クルノ必要ヲ主張シ比津賓群島總督ニ其承諾ヲ求メタリ然ルニ其區域ヲ決定スルニ當リ各國各々利害ヲ異ニシ其畫定並ニ護衛ノ方法ニ付テハ未タ充分ナル決議ヲナスニ至ラス然レニ概ニ其指定ス可キ地線ハ左ノ如クナル可シト云フ然レニ果シテ米國司令長官並ニ教徒ノ首領カ之ヲ承諾スルヤ甚ク疑フ所ナリ

(其指定區域)

バシク河以北岸ニシテ現知港事廳附近英國假領事館位置ヲ西端トシ北東ビンド沿ヲ中斷シ大煙草製造所ノ北端ヨリビンド區ニ入り *Sulbacon*

沿一帯ヲ以テ界セル一線 *San Francisco Bay* 區ノ一部ハ
河邊 *Colgate* 橋以西ノ陸地

十 カビテ視察報告

六月二十一日カビテ視察ノ爲メ米國司令長官ハ添書
ヲ送り本艦乗組士官ヲシテ同所ヲ視察セシム其
報告左ノ如シ

六月二十一日午前米艦「オリシピヤ」乗組少尉某ノ案
内ヲ以テカビテ視察ヲナス而シテ其大体ハ軍艦秋
津洲ノ報告ト異ナル所ナキヲ以テ唯其遺漏スル處
ヲ掲クシハ左ノ如シ

(1) サレガレノ砲台

該半島ニ於テ有力ノ砲台タリシハ唯サレガレ
ノ砲台ナリトス此砲台ハ六吋後裝砲三門(ホント

リヤナラシ)ニシテ戦後西軍ハ自ラ砲台ヲ破
壞シ去リ今ハ二門ヲ残スル此砲台ヲ去ル南
方海濱ニ四吋七ノ後裝砲一門アリ(少尉某ノ
云フ所)

(2) カビテ砲台

其他ノ砲台ニ備フル所ノ者ハ皆前裝砲ナリ造
船廠ノ一端ニアル砲台ノ如キハ多數ノ砲ヲ有スル
モ皆旧式ノ前裝砲ニシテカビテ灣内ノ防備ヲ
ルニ過キスレテ發砲セシ痕跡ナシ又造船匠埔
頭ノ近傍ニ六吋前裝施條砲二門アリ是亦
發砲セシ痕跡ナシ

(3) 米軍陸上占領

米國海兵少尉一名ノ率ユル海兵十六名陸上

(4)

諸

軍港區域内ヲ守備セリ米艦隊司令長官
ハ兵員ノ北域内ヲ出ツルコトヲ禁スト云フ
此區域内ニハアドミラルノ居タリト云フ官衙武
庫病院兵營罪人拘留所造船廠及之屬
スル諸工場及倉庫等アリ

(5)

キヤビテ市

造船廠ハ番械等凡テ其終ナルカ如シ
兵舎官衙等ハ室内ニ椅子テールノ外一物
ノ存スルナシ思フニ西軍ノ有セシ小銃野砲
等ハ皆叛徒ノ手ニ委シタルニハアラサルナキカ過
未屢耳ニスル所ノ米國ハ叛徒ニ武器ヲ給セリ
ト云フハ此等ヨリ出テタル説ニハ非ルカ

(6)

叛徒ノ汽船

キヤビテ市ハ全ク米軍ノ台領外ナリ市中ニヨ
敷ノ叛徒アツテ西軍ノ士官兵卒ハ捕虜トナ
リテ北叛徒ノ手中ニアリ

(7)

叛徒所用ノ旗

キヤビテニ沈没セル西國軍艦及米國ノ捕獲
セル艦船ハ秋津洲報告ノ如シ近着ノ外輪汽
船五六百噸ノ者一艘アリ叛徒ノ船ナリト云フ叛
徒ノ旗ヲ翻セリ



叛徒所用ノ旗ハ左圖ノ如シ

(8) 案内ニ来レル米國海軍少尉ハ事叛徒ニ関ス
ルモノハ皆不知ト云フ故ニ其詳細ヲ知ルニ由ナシ
右報告准也

明治三十二年六月二十日

原大尉

馬尼刺陸軍病院並ニカヒテ造船廠參觀記事

海軍大軍醫 百瀬 一

馬尼刺市ニ於ケル西班牙軍ハ初メ米艦ノ砲撃ヲ
恐レテ之ヲ避ケルカ爲メ市ノ内部ニ軍隊ヲ移シ
彈藥ヲ運搬シ從テ從來ノ陸軍病院モ海岸ヲ去
ル稍ヤ遠キ位置道ノ各寺院ニ分配轉移セラシタリ
然ルニ陸上ニ於テ市近圍ノ各方面ヨリ叛徒ノ攻撃
ヲ受ケ却テ海上ヨリノ危険ハ少ナキニ至ルヲ認メタリ
リ再ヒ城内ニ退結スルニ至リ此ノ如キ有様ナルヲ以テ
病院ノ移動開閉等ハ常ニ定マラサル所ナリトス初メ
叛徒ノ攻撃ヲ受ケルヤ野戰病院トシテサレシゲル
町ニ於ケル一豪商ノ家屋倉庫ヲ以テ之ニ充テタリ

六月九日之ヲ觀ル其位置置パシツク河ニ沿ヒ其上流並

ニ其近圍ノ戰鬪線ニ於ケル負傷者ハ直ニ汽艇ヲ以テ運搬シ来ルノ便アリ又之ヲ陸軍病院ニ轉送スルニ半ハ水利ヲ以テスルヲ得可シ其住屋ヲ以テ事務所軍医室藥室手術室等ニ充テ倉庫ヲ以テテ病室ニ充ツ病床ハ百名ヲ收容スルニ足ル室由廣濶ニシテ空氣流通先ツ可ナリ藤網ヲ張りタル木製病床ヲ具エ其他器具器械等ハ全シク普通通ノ病院ト異ナル所ナシ近頃新タニ本國ヨリ着シタリトテ得色ヲ以テ示サレタル硝子板製手術台ハ結構完備美觀ナレト台上深ク積レル塵埃ト赤褐色ヲ呈セル器械類ハ西人ノ意トセサルモノ如シ當時在院患者二十八名重傷者ナシ其過半ハカヒテ戰鬪ノ時負傷シタルモノナリト云フ当院

ニ二種ノ傷者運搬具アリ一ハケニシテ担棒ハ檜ノ木杆ニシテ鉄骨鉄脚ヲ具エ護膜布ノ避雨覆蓋ヲ具エ其兩側ニハ各一ノ金屬製ニテ開閉ス可キ凹形ノ格子ノ様換氣孔アリ重量ハ本邦ニ於テ普通使用スルケニシテ担荷ノ少クモ二倍ヲ有ス可シ他種ハ全ク竹製ニシテ亦脚ヲ具フ覆蓋ナシ前者ヨリ稍輕シ甲ハ西兵ヲ運搬シ乙ハ土兵ヲ運搬スルニ供スルモノナリト云フ

六月二十日艦長ノ照會ニヨリ米艦オリシピヤ士官ノ案内ニヨリカヒテテノ造船所ヲ見ル令港内ニハ米艦ノ爲メ打テ沈メラレタル西艦十隻半バ燒失シタル橋頭破壞シタル烟突ヲ水面ニ顯ハシ狀慘悴以テ當時西軍ノ死傷者多數ナルヲ察スヘシ造船廠ハ一城廓ニ接シ市街ニ隣リシタル一區劃ニシテ規模小ナリ

城郭ハ當時要ナキヲ以テ閉鎖セラレ所々古式ノ砲
ヲ見ル市街ハ叛徒ノ占領スル所トナリ叛徒ハ西ノ捕
虜數百ヲ茲ニ嚴守シ幽閉ス表面上造船所内
米軍ト交通ヲ遮断ス所内ハ各種ノ造船工場
並ニ銃砲彈丸製造工場アリテ其一部ニ米國治
工木工等ノ就業セシヲ見シモ多クハ乱雜所々砲
丸ノ痕跡アリテ戦後ノ光景依然タリ岸ハ海岸
ニ近ク建築セラレ構造稍美ナリ庭園ハ百撒ノ樹
木能ク繁茂シ異花咲キ乱シ頗ル爽快ヲ感ス
美花雜樹ニ更シキ熱地トシテハ實ニ貴重ノ花園
タル可シ海岸ヨリ最モ隔リタル部ニ平屋ノ一小
建築アリ之レカシアカスニ於ケル海軍病院ノ派出
所ノアリシ處ナリ木造亞鉛板ノ屋根ニシテ床ハ煉

瓦ヲ布キ殆ト地面ト高サヲ同フス病室ニケアリ
藤網木製ノ病床合セテ二十四処々血痕ヲ見ル空
氣流通可ナレ光線ノ射入ニ更シ其他軍医室
藥室等アレモ皆械藥品等ハ只破壊瓶數個
ノ痕跡ヲ殘セルノミ軍医室ニ一基ノピアーヲ遺ス
指ヲ觸ルレハ忽々艶麗ノ音ヲ發シ恨ムカ如ク訴フ
ルカ如シ
米艦ノ狀況ヲ聞クニカヒテ占領時ニ當リテ米軍ノ
員傷者合セテ五名皆輕症ニシテ目下大約全治
ニ赴ケリ現今患者ハ至ツテ少ナク各艦ニ三名過
キス又赤痢マラリヤ等ノ症ナシト云フ故ニ陸上ニ於
テ病者ヲ治療スル病院ヲ設クルノ必要ナク各艦
内ニ於テ治療スト

野菜及菓物ノ類ハ陸上ニ於テ徵發シ又ハ市ニ於
テ自由ニ之ヲ求ムルヲ得シ牛雞肉ニ至リテハ之ヲ
尋ク罐詰肉類ノミヲ食ス飲料水ハ悉ク蒸溜
水ヲ使用ス元來當所ハ地面尤モ低ク狹隘ノ地井
水ナク又水道ノ設ケナシ倉庫等ノ屋根多クハ亞
鉛板ニテ頗ル大ナル雨桶ヲ用ヒ雨水ヲ数尋ノ大ナル
タレクニ貯蓄シテ使用ス

六月二十三日西班牙軍医總監 (Inspector General)
ヲ訪問シ西軍傷者並ニ病院ノ狀況ヲ聞クカヒテ
戦闘ニ於ケル死傷者ハ合セテ四百名内負傷者ヲ百
七十名トス初メニ陸軍病院ハ海上ヨリノ砲撃
ヲ避クルカ爲メ市内ニ於テ海岸ヲ距ル尤モ遠ク敷
寺院ニ轉シタリシカ報徒ノ襲撃ヲ蒙ルニ六月

十五日ニ至リ悉ク城内ニ移轉シサンフランデゲオス学
校ヲ以テ負傷者ヲ收容スル病院ニ充テ他寺院等
五ヶ所ニ病者ヲ收容スルトナセリサンフランデゲオス
病院ヲ參觀スルニ規模尤モ大ナルモノニシテ過搬參
觀セシ野戰病院モ茲ニ合併セリ此校ノ建築ノ模
様恰モ東京劇場歌舞妓座ノ造構ニ彷彿ナリ
廣キ大ナル講堂及其二階ニ教列ノ病床ヲ置キ高
不足ヲ告ケシヲ以テ隣屋ノ廣キ廊下ニ病床數尋
ヲ置ク病床數合セテ二百五十トス其舞臺トモ稱ス
ヘキ稍高キ位置ニ繃帶材料等治療品ヲ陳列
シ調劑所トス手術室軍医室ハ其一側ヲ區劃シテ
使用セリ院長副長並ニ軍医四名數尋ノ看護兵
並ニローマシカソリック信徒ノ看護婦其職ニ従事ス

現在傷者八百九十名ナリ過半銃創患者ニシテ
其状諸般奇症頗ル多シ止血ヲ十分ニセサルコト及
繃帯交換ハ至テ少キノ主義ヲ採ルモノト見エ
血液繃帯ヲ浸透スルモノ多ク臭氣從テ盛ナル
ヲ認メタリ手術台ハ西軍医ノ尤モ得色ヲ以テ示セ
ルモノニシテ嘗テ野戰病院ニテ見タルモノナリ昔械
類ハ前回ト合シク古色ヲ帶ベリ時恰モ午餐ニ降セ
シヲ以テ患者食餌ノ一端ヲ視フニ我カ海軍ニ於テ
使用スル食器大ノ器ニ米飯ヲ盛り其傍ニ一二片
ノ煮タル甘薯ヲ付ス是輕傷者ノ食ニシテ一小肉片
ヲ付スルモノハ重傷者ノ食トス西人ハ城内ニ籠リテ
久シキニ亘ルモ糧食ニ欠乏スルノ虞ナシト公言スレモ
之ヲ以テ見レバ既ニ窮境ニ近キヲ察スルニ足リ報

徒起リテヨリ当今迄戦闘ノ爲ノ死傷セシモノ百
五名内四十五名ハ戦死セリ西ノ士官曰ク西兵ハ銃
砲ヲ操リテ戦フノ際ニハ傷死者ヲ出スコトナク兵
員ノ砲聲ヲ交代スルニ當テ常ニ組撃ヲセラルモノ
ニシテ昨今一日平均二名ノ負傷者ヲ出スノミナリト云
又以テ西兵ハ如何ナル戦争ヲナスヤヲ察スルニ足ル可キ
カ当院ニ於テハ朝六時ヨリ十時迄手術ヲ行フ此時
間ニ於テ西ノ軍医ハ我々日本軍医ノ来院並ニ自
ラ執刀手術セラレシコトヲ希望セラレタリ
普通通病兵ハ城内五ヶ所ノ寺院學校等ニ分テ治
療シ其敷合セテ九百ニ達セリ其病状中尤モ多
キモノハ赤痢及「マラリヤ」ニシテ「マラリヤ」ハ當時ノ
気候ニ於テ發スルヲ尤モ悪性ナリト云フ

